

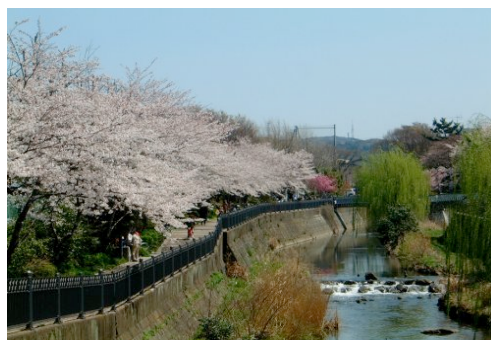
いたち川（神奈川県）

私の住む神奈川県横浜市栄区には流路長 9.0 k m、流域面積 14 k m²の 2 級河川である「いたち川」が流れている。この川は東京都と神奈川県の境を走っている境川という川の支々川であり、JR 東海道線の大船駅付近で境川の支川である柏尾川に合流する。

私が通っていた県立柏陽高等学校はこのいたち川沿いにあり、私の家から学校までの道のりのおよそ半分は川沿いの道であり、毎日いたち川を眺めながら登校した。高校では運動部に所属しており、そのため「外周」といって学校の周りをランニングすることが毎日のトレーニング課題となっていた。もちろん、この外周コースの四分の一は川沿いであり、春には綺麗な桜を楽しみつつ、秋には銀杏の臭い匂いに苦しみながら走った記憶がある。私がいたち川と触れ合ったのは何も高校生になってから、というわけではない。4 歳の時に今住んでいる横浜市栄区に引っ越してきて以来、幼いころからいたち川には親しんでいる。私がよく遊んでいた鎌倉街道沿いの天神橋（てんじんはし）あたりでは、川中に大きな鯉が泳ぎまわり、鴨や白鷺などの野鳥を見ることがもできる。川遊びが大好きだった私は、パン屋さんに行っては食パンの耳を無料でもらい、それを鯉にあげるのがちょっとした日課になっていた。母や祖母と川沿いに行っては夢中でパンの耳を鯉に上げる私の洋服を、川に落っこちないように、とつまんでいる祖母の姿が思い出される。ジュースの飲み終わったコップで川を泳いでいた小さな魚を取って持って帰り、家の水槽で金魚と一緒に飼いはじめたが、その魚はすぐ死んでしまって泣いたこともあった。今考えると、とんでもないことをしていたと思う。やはり川の環境と水槽の環境は全然違うものであり、むやみやたらに野生の動植物を持ち帰るのは良くないと、身をもって知った体験でもあった。また、夏には家族でいたち川上流へ蛍を見に行ったこともあった。いたち川上流域では



見察することができるが、幼かった私にはその違いなど見分けることもできず、ただ夏の夜に黄緑色に光る蛍を眺めて喜んでいた。



今のいたち川の様子はどうかと、私が 4 歳だったころと比べて、さほど変わりが無いようである。強いて言うのであれば、以前から整備が進められている川原や川沿いの遊歩道が綺麗になったことくらいだ。前兆 9.0 k m の中で、すべての川周辺が整備されているわけではないが、大部分において、川とコンクリートの間には土や砂利でできた川原があり、そこにはたくさんの植物が生えている。また川には適当な箇所飛び石が設けられており、川のそばで遊ぶことのできる場所もある。川沿いの遊歩道には、いたち川のおいたちや、いたち川に生息する生き物のことについて書かれた看板や、手作りのパネル、休憩用のベンチや、芸術的な彫刻が設置されている。

以前にいた鯉も健在で、川中を元気に泳ぎまわっていた。早朝には運が良ければ白鷺や、カワセミを観察することもできる（高校生だった時に、実際にこの目で目撃した）。柏陽高校の裏門近くにある「大いたち橋・小いたち橋」は、私が引っ越してきてから作り直された新しい橋で、いたち川のマスコットである「イタチ」の石造や動物の足跡が描かれた敷石などもあり、人々が川に親しみやすいような造りになっている。これはインターネットで「いたち川」を検索して知ったことであるが、いたち川は都市内河川整備のモデルとして有名であるらしい。1987年にはふるさとの川整備モデル河川に指定され、横浜市は整備事業だけでこれまでに300億円を投入しているそうだ。

いたち川の名前の由来には諸説あり、動物の「イタチ」とは全く関係ないとする説もある。その説は私が小学生のころに担任の教師から聞いた話であるが、いたち川の「いたち」は「いでたち」が訛って「いたち」になったのだ、というものだ。戦前、戦地に出で立つ前の兵士がこの川で身を清めていったことから「出で立つ川」→「いでたち川」→「いたち川」になったとのことだった。他の説では本当にこの川にイタチがいる、というのや、鎌倉時代の書物に「狢川」と書かれていたことから「いたち川」となった、という説もある。横浜市は通常「いたち川」と表記しているがタウン誌である「いたちかわらばん」には「鮪川・狢川」と表記されている。この「狢」という字は、常用漢字ではないようで、パソコンで変換しても出てこない。インターネットでキーワードの“いたち川”を検索（Googleで）してみると、トップに出てきたのは「横浜市 栄区区政推進課 いたち川」というもので、横浜市が公的に開設しているホームページであった。このホームページでは「いたち川散策マップ」と、先ほど紹介したタウン誌の「いたちかわらばん」がPDF形式で掲載されており、自由に閲覧することができる。「かわらばん」には「瓦版」、「川原（の）番（人）」などさまざまなねがいがこめられているそうだ。このタウン誌にはいたち川周辺の生き物についてや、地域の人々や周辺の学校生徒たちによるいたち川に関連する活動報告などが載せられている。



川を観察にいった日に、川沿いを散歩していた老年の男性に昔のいたち川について、どんな様子であったか尋ねてみた。その方が幼いころは、川は現在のようにコンクリートの舗装ではなく、自然のままに流れていたとのことだった。しかし、雨が降るたびに増水して災害をもたらしたのでそのうちに川の整備が行われ、三面張り（さんめんはり）で死んだような川になってしまったそうだ。ちょうど30年ほど前はいたち川はメタンガスがわき、異臭を放ち、とても清流とは呼べるものではなかったとのことだった。家に帰り、いたち川の歴史についてインターネットで調べてみたところ、60

年代は、いたち川流域は開発も殆ど進んでおらず、川には湿地帯も残っていて自然に近かったそう。しかし、その後急激な宅地化により、治水対策上河道の拡幅、直線化、コンクリート護岸整備がおこなわれ、水深が浅く流れが均一で植生に乏しい単調な都市河川となってしまったという。そこで、1982年よりいたち川を以前のように自然豊かな川にしようと低水路整備授業が始まった。このような市を挙げての川保全と、住民による地道なゴミ拾いなど、いたち川が生き生きとした美しい川であって欲しいという願いや努力が、今の動植物溢れるいたち川を現実のものにしたのだと思われる。

今、いたち川は日々綺麗になり、動植物が住みやすい環境になってきており、川も喜んでるように見える。一時期は「いたち川はダイオキシン濃度全国第一位」などと騒がれたこともあったが（平成十年度に行われた全国河川調査でダイオキシン濃度が基準値をはるかに超えて検出された。しかし、翌年の調査では基準値を大幅に下回っていたので、市は以前の数値は一過性のものであったと説明している）、現在では周辺の学校や地域住民も川の保全に積極的であるので、いたち川の将来は安泰だ。「いたちかわらばん」に載っていた記事の情報であるが、いたち川流域に位置する笠間小学校は、近年新たに設けられた「総合的な学習の時間」の題材にいたち川を取り上げ、川に棲む生き物の調べ学習を行っている。これを発表し、保護者や地域の人々にいたち川に関心を持ってもらうことができたそうだ。また、「いたち川 otasuke 隊」という栄区役所役員による保全活動も行われている。以前1mにもなる大きな落差があり、小さな魚たちが登ることができなかった箇所は、すべての魚たちが上れるような傾斜のゆるい魚道が作られ、今では魚が飛び跳ねてぐんぐんのぼっている。昔と比べれば、いたち川は都市河川になってしまったかもしれないが、一時期は動植物の陰が見えない「死の川」になっていたいたち川が、現在は生命力に溢れる川によみがえったのだ。私は、この川が人々の憩いの場であってほしいと思う。子どもたちも、室内でTVゲームばかりしていないで、川遊びの楽しさを知ってほしい。そのためには、川を守っていかねばならない。なぜなら、澱んで汚い川は誰も近寄りたとは思わないからだ。一度壊してしまったものを元に戻すことは難しいことを肝に銘じ、この先もいたち川の自然を守り、いつまでも綺麗で生き生きとした川であり続けて欲しいと願う。

【公開 OK 匿名】

◆URL

横浜市 栄区区政推進課 いたち川

<http://www.city.yokohama.jp/me/sakae/kusei/kawa/index.html>

環境技術 川歩き 11月号 いたち川

http://jriet.net/magazine/2004/kawaaruki/11gatu/11gatu_kawaaruki.htm